

## 報 告

# 京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2022 年度 活動報告

## 1. 京都文教大学 地域連携学生プロジェクト

京都文教大学では、地域を対象とする学生の自主的活動の中から、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みを「地域連携学生プロジェクト」として選定し、支援、助成している（2007 年度～ 2021 年度採択プロジェクト数：延べ 96 団体）。

地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどへの学部、学科を超えた主体的な取組や、実習や演習などの延長にあり、大学での学びを発展的に展開するような取組、地域の住民・行政機関・地元企業・団体等との連携、協働で展開する取組を「地域連携学生プロジェクト」として採択し、学びと地域貢献を両立させる場として本活動を推進している。

## 2. 募集概要

2022 年度は次の通り公募をし、学生団体（5 団体）から申請された。

申請期間：2022 年 4 月 11 日（月）～ 4 月 28 日（金）

助成期間：約 1 年間（採択日～ 2023 年 3 月 31 日）

助成金額：上限 25 万円までとする。

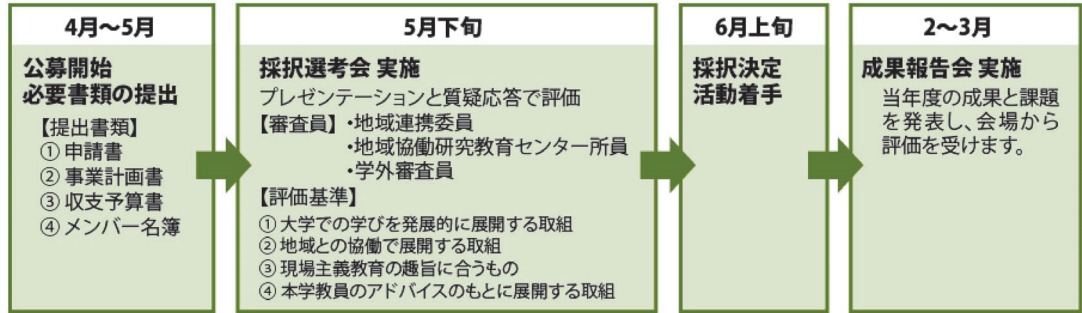
申請条件：

- ・地域と協働および連携を図る事ができるプロジェクトであること。
- ・本学学生（学部・学科は不問）3 名以上で構成されるチームであること。
- ・地域パートナーまたは連携先が明確であること。
- ・適正な経理処理・事業報告ができること。
- ・学生が依頼し趣旨を理解してサポートする本学教員（アドバイザー教員）がチームに含まれること。

## 3. 採択までの流れと年間スケジュール

次の通り、年度当初に学内から申請を募り、その後採択選考会を実施し採択の可否を行う。審査は、京都文教大学地域協働研究教育センター員と地域連携委員の学内審査員と、行政・企業・高等学校等から成る学外審査員が行う。

採択された学生団体に年度末に開催する成果報告会の参加と事業報告書の提出を義務づけ、活動のフィードバックを行う。



#### 4. 2022 年度の採択団体


以下の5団体が「地域連携学生プロジェクト2022」に採択され、活動に取り組んだ。

※ 【 】内に活動開始年度 < >内にアドバイザー教員名を記載

- ・宇治☆茶レンジャー 【2010年度～】  
 <森正美（京都文教大学総合社会学部総合社会学科教授）>
- ・商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas 【2014年度～】  
 <片山 明久（京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授）>
- ・KASANEO 【2018年度～】  
 <黒宮一太（京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授）>
- ・REACH 【2019年度～】  
 <松田美枝（京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科准教授）>
- ・KminK 【2022年度～】  
 <黒宮一太（京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授）>

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2022  
事業実績書

2023年2月27日

プロジェクト名	宇治☆茶レンジャー
事業実施地域	宇治市、京都市
連携先	地域パートナー：通圓 通円祐介様 宇治市茶生産組合・福文製茶場 福井景一様 主な連携団体等：京都府茶業会議所、京都府茶協同組合など
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      ⑥ 地域産業おこし      ⑦ 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      ⑩ 地域文化活動      ⑪ 地域行催事      12 その他 ( )
主な活動	( 10 ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	急須でゆっくりお茶を楽しむ時間が減っている一方、宇治茶は、文化的価値や生産、製造の風景・景観の美しさについての評価が高まってきている。また宇治市立小学校での「宇治学」の取り組みの中で宇治茶を学ぶ地域学習の広がりや、海外での日本茶ブームなど、宇治茶を取り巻く環境は変化し続けている。本プロジェクトは、幅広い世代の方に宇治茶のおいしさや魅力を発信することで、多くの人に宇治茶に親しんでもらうことを目指す。
具体的な事業内容	<p><b>【宇治茶デジタルスタンプラリー】</b> 宇治にまつわる歴史や文化のクイズに答えながら、宇治茶にまつわる場所を巡ることで宇治茶を学んでもらうイベント。昨年度と同様、接触を減らすという観点からスマートフォンとQRコードを利用したデジタルスタンプラリーの形式で約1か月間開催した。また、今年度はクイズも取り入れ、スマートフォンを持っていない子どもでも参加しやすいようにした。</p>  <p>&lt;宇治茶デジタルスタンプラリー&gt;</p> <p><b>【SNSを使った情報発信】</b> 昨年度開設した宇治☆茶レンジャーのYouTubeチャンネル「宇治茶レ☆茶ンネル」においしい煎茶の淹れ方講座を自分たちで撮影・編集を行い投稿した。</p> <p><b>【お茶の淹れ方体験ワークショップ】</b> 6月と11月の中宇治まちにワークショップ、10月のわんさかフェスタ、1月のうーちゃフェスタと今年度は様々なイベントでワークショップを実施することができた。4～5種類の煎茶を用意し、参加者の方に選んでもらうなど工夫して行った。また、OCやともいきフェスティバルにも参加し、お茶の淹れ方体験ワークショップを実施した。</p>



<お茶淹れ体験ワークショップ>

**【日常的なミーティングや研修】**

今年度は1年生が7名、2年生と3年生が1名ずつの計10名を新メンバーとして受け入れることができた。昨年度までと同様、ミーティングの中でメンバーがお茶を淹れることを継続して行った。また、3年生、4年生による宇治の案内や、宇治茶道場「匠の館」でのお茶の淹れ方講座や、お茶と宇治のまち交流館「茶づな」でのワークショップなど宇治茶を学ぶ機会を設けた。



<地域の宇治茶生産者へのインタビュー>

**【宇治茶デジタルスタンプラリー】**

デジタルという形式と、1ヶ月間という長期間開催することで地域の方だけでなく、観光で宇治を訪れた方にも多く参加していただくことができた。参加者数は累計1,110人であった。クイズも取り入れたことで、昨年度スマートフォンを持っていなかったために参加できなかった子どもにも多く参加してもらうことができた。参加者へのアンケートでは、「楽しかった」と回答した人の割合が98%であり、「来年も参加したい」と回答した人の割合は82%であった。「スマートフォンを持っていない人が参加できない」「景品の種類が少なく、開催期間中になくなってしまった」という昨年度の課題を解決するため、クイズを取り入れる、協力店舗から景品を提供していただくといった初の試みもあったが、協力店舗・参加者の反応もともに良好でありイベントは成功したといえる。

事業の成果

**【SNSを使った情報発信】**

おいしい煎茶の淹れ方講座の動画を作成することで、不特定多数の人に発信することができた。動画の再生回数は55回と多くはないが、今後Twitterなどを利用してさらに多くの人にみってもらうことで、宇治茶の魅力を広めることにつながると考えている。また、実際に撮影から編集まですべて自分たちで行うことで動画撮影に必要なノウハウを学ぶことができた。

**【お茶の淹れ方体験ワークショップ】**

ワークショップを行うことで、より多くの方に宇治☆茶レンジャーの活動や急須で淹れたお茶の魅力伝えることができた。昨年度と比べてワークショップの開催が増えたことで、より多くの人に急須で淹れたお茶の魅力を普及させることができただけでなく、自分たちの教え方の上達にもつながった。煎茶を数種類用意し、参加者の方に選んでもらうという方法も、宇治茶を扱っている店舗を知ってもらいきっかけにつながることができた。

<p>次年度への課題</p>	<p><b>【宇治茶デジタルスタンプラリー】</b> クイズを実施することはできたが、参加者アンケートで「クイズの難易度が高い」という声が多かった。インターネットで検索してもクイズの答えが簡単には分からない問題を意識した結果、ひっかけ問題が多くなってしまった。「スマートフォンを持っていない子どもでも楽しめたので良かった」という声もあったため、クイズの実施に対する参加者の反応は良好だった。次年度は、宇治市立小学校の授業の一つである宇治学の内容から問題を作成するなど小学生でも分かる難易度の問題を作成するために工夫する。</p> <p><b>【SNS を使った情報発信】</b> SNS 班のメンバーもクイズの作成などスタンプラリーの準備を行っていたため、SNS での活動に力を入れることができなかった。SNS 活動の具体的な内容を決めることができず、更新頻度が少なかった。普段のミーティングの様子を投稿するなど、SNS の投稿頻度を増やすことから始める必要がある。</p> <p><b>【日常的なミーティングや研修】</b> メンバー自身が、ミーティング以外でお茶を淹れる・学ぶ機会が少なかった。そのため、ワークショップなどで参加者の方からの質問に答えることができないといった場面があった。また、イベントやワークショップに参加するメンバーが固定化されていたことも知識不足につながった。次年度では、新メンバーが加入したタイミング以外にも研修を積極的に行う。また、ミーティング中にお茶の淹れ方以外の部分（製法や歴史など宇治茶に関わること）について学ぶ機会を設けることでメンバー間の知識量の差をなくしていく。</p>
<p>アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)</p>	<p>(アドバイザー教員氏名) 森正美 (京都文教大学総合社会学部総合社会学科教授)</p> <p>今年度は以前より対面での活動も再開され、徐々にワークショップなどもできるようになりました。慣れないながらも、上級生を中心に、助け合いながら、笑顔で参加者の皆さんに向き合い少しずつコミュニケーションや運営の方法が上達していく皆さんの成長をみているのはアドバイザーとしても楽しみでした。4年生はプロジェクトの継続に尽力し、地域の皆様のサポートも得て、温かな雰囲気の中でお互いが助け合える現在のメンバーのつながりを生み出してくれました。後輩たちがさらに宇治茶について興味を深め学び、楽しみながら活動を継続してくれることを期待しています。</p>
<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(ご氏名) 通門祐介氏 (ご所属) 株式会社 通圓</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況により、大変判断が難しい中での活動でしたが、特に、クイズラリーは各店舗やスポットに設置されたクイズパネルを見ながら楽しそうに回る、子供同士のグループ、親子を沢山見ることができ、協力してよかったと思えました。宇治十帖スタンプラリーも宇治茶スタンプラリーもデジタルでされた中で、マップを見ながらリアルに達成感を味わえて参加者も喜んでおられたように思います。</p> <p>YouTube チャンネルについては、開設をされたものの登録者数、再生回数ともにまだまだ少ないと思いますので、茶関連のイベント等で宣伝されれば、有効に活用されるかと思えます。</p>
<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(ご氏名) 福井景一氏 (ご所属) 福文製茶場</p> <p>対面の活動が制限される中取り入れた YouTube やデジタルスタンプラリー等の活動は、新しい取り組みとして立ち上げからご苦勞も多かったと推察します。しかし、多くの方から高評価をいただいていますので、再開されつつあるワークショップや対面での活動と並行して、さらに改良して続けて行かれるとよいのではないかと思います。</p>

京都市立大学地域連携学生プロジェクト 2022  
事業実績書

2023年2月27日

プロジェクト名	KASANEO
事業実施地域	宇治市
連携先	地域パートナー：宇治市健康長寿部長寿生きがい課 主な連携団体等：北横ハーモニー
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動    ③ 共助型福祉活動    ④ 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし    7 地域商業の活性化   8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興   ⑩ 地域文化活動    ⑪ 地域行催事        12 その他 (            )
主な活動	( 3 ) 番    選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	超高齢社会の現在、多世代で交流し助け合っていく必要があると考える。しかし、それを実行するには年代差の壁が大きすぎるように感じる。例えば京都市立大学では、宇治市高齢者アカデミー生が学内にいるにもかかわらず、アカデミー生と学生が交流しているのはごく一部である。世代が異なるもの同士で話題のズレなどが生じることは仕方がないことであろう。そこで、歳の離れた者同士でも自然に話し交流できるような共通の話題を模索した。その結果、20年周期で流行するといわれている「ファッション」に着目し、ファッションを通じて多世代の自然な交流を可能にする場作りを目的として事業に取り組むことにした。
具体的な事業内容	<p>高齢者は、自分の身の回りを処分し、終活を始めている人が多い。その中でも、思い出のこもった衣服をなかなか捨てられずに悩んでいる方が多く、衣服には特別な思い出が詰まっているのではないだろうか。私たちはそこに着目し、古着を「物」としてではなく「思い出」として受け継ぐために、高齢者に思い出を提供いただき、学生の私服とコーディネートをして衣服を蘇らせ、以下の取り組みで紹介し、ファッションを通じた多世代の交流を生み出していった。</p> <p>① 3月-2月 北横ハーモニー</p> <p>グリーンタウン横島中央集会所にて、月に1回その地区に住む高齢者の方々と交流した。交流を通して、シニアメンバー以外の高齢者の方からも思い出の衣服を提供いただけるようになった。</p> <p>② 5月-9月 京都府立京都すばる高校との共同事業</p> <p>昨年度と同様に、生徒の皆様が自分の家族から思い出の衣服を提供いただき、その思い出を聞き取りと、それを活かしたコーディネートを考えて。そして、ファッションショーの企画を考え、連携授業の集大成としてファッションショーを実行した。</p> <p>③ 5/28 スナップ撮影イベント「春」(於 宇治市植物公園)</p> <p>10/29 スナップ撮影イベント「秋」(於 伏見地区)</p> <p>高齢者に提供いただいた思い出衣服を紹介する雑誌作成に使用するスナップ写真撮影を目的に、春と秋の2回に分けて撮影を行った。当日は、メンバー以外のカメラマン4人、モデル15人の学生が参加した。スナップ撮影イベント「春」は、シニアメンバーの提案を学生メンバーが企画実行し、スナップ撮影イベント「秋」は、チームメンバー全員で撮影スポットを探した。そのため昨年度までよりもシニアメンバーとの交流を行うことができた。</p>



< 5/28 スナップ撮影イベント「春」(於 宇治市植物公園)の様子 >

④ 12/3 アート×宇治地域フェス 2022 (於 お茶と宇治のまち交流館 茶づな)

1年前からお話を頂戴していたお茶と宇治のまち交流館「茶づな」と交流することで、新たな場所との繋がりができました。また当日行ったファッションショーでは、まだランウェイを歩いたことのないシニアメンバーとランウェイを歩くことができました。

⑤ KASANEO FES

1/12.13 展示会 (於 京都文教大学普照館 2F.3F.5F)

提供いただいた衣服を、「思い出ラベル(提供者の名前とその衣服の思い出を載せたラベル)」とともに展示した。今年度は、学生が足を運びやすい会場を普照館を会場にした。また、来場者には学生メンバーがデザインしたステッカーを配布し、より多くの方に見に来ていただけるよう工夫を行った。

1/14 ファッションショー (於 京都文教大学構内サロン・ド・パドマ)

KASANEO COLLECTION 12th では、高齢者の方に着なくなった衣服を学生の私服と組み合わせコーディネートし、新しく生まれ変わった衣服の姿を披露する場となった。今回も高齢者の方にモデルとして出場してもらった。また新たな試みとして学生メンバーが各学年ごとそれぞれテーマにあった自身の思い出衣服を着用し、参加者の方に投票いただく来場者参加方型企画を行った。紹介された衣服を受け継ぎたいと思う参加者が「欲しい理由」を発表し、審査員(シニアメンバー3名)が衣服を受け継いでもらう人を決定し、4着の衣服を「思い出」として次の方に受け継ぐことができた。さらに会場内には、ハンドメイドやフリーマーケットのブースを設け、多くの交流できる場作りを行った。



<ファッションショー>

⑥ 第7回健康長寿フェス 2023 (於 宇治市生涯学習センター)

連携先である宇治市健康長寿部長寿生きがい課様と一緒にイベント企画実行ができた。このイベントでは、学生メンバー・シニアメンバーだけでなく、現役アカデミー生にもイベントに参加していただいた。このことにより現役のアカデミー生との交流も行うことができ、KASANEOについて知ってもらった1つのきっかけとなった。



<第7回健康長寿フェス 2023 にて>

⑦ その他

- 5月 アカデミーアワー (11日)・宇治商工会議所 NEWS (タイニースプラウトさん)
- 6月 アカデミーアワー (22日)
- 7月 七夕スナップ (7日)・オープンキャンパス (17日)
- ひまわりスナップ (23日)・アカデミーアワー (27日)
- 8月 オープンキャンパス (6日・7日・21日) アカデミーアワー (28日)
- 9月 総合的な探究の時間 (9日) 全国まちづくりカレッジ 2022in 香川 (23-24日)
- 10月 わんさかフェスタ (22日)
- 11月 環境フェスタ (27日)
- 12月 ともいきフェスティバル (11日)・総合的な探究の時間 (16日)
- 2月 ニュー銀座堂ブース展示 (3日・26日)・探究学習交流会 (18日)

事業の成果

- ①新たに北横ハーモニーが地域パートナーになったことにより、高齢者との交流の幅を広げることができた。昨年度までは、提供者がシニアメンバーや学生の祖父母など偏りがあった。しかし今年度新たな連携先が加わったことにより、衣服の提供者の幅が広がった。またこのことにより、シニアメンバー以外の高齢者との交流も増加した。
- ②今年度は昨年度よりもシニアメンバーと深い交流をできた。シニアメンバーと学生メンバーの交流が深まったことにより、シニアメンバーからの意見を積極的に活動に取り入れた。特にスナップ撮影イベント「春」は、宇治市植物公園での開催をシニアメンバーの提案から決定した。
- ③ KASANEO のイベントに参加したことのない人たちにも、宇治市主催のイベントに参加することで知ってもらうことができた。そして参加をきっかけに宇治市高齢者アカデミーへの勧誘のきっかけやシニアメンバー獲得へも繋がった。また衣服や衣服の思い出を紹介したことで高齢者の観客から共感を得ることができ、イベント会場では観客者同士の会話も促進することができた。

次年度への課題

- ①今年度はより多くのイベントに参加することができた。しかし忙しさに追われてしまい「やるべきこと」が疎かになってしまった。そのため現状維持で精一杯の場面が多く見られた。来年度はイベントの取捨選択をし、1つ1つのイベントに力を入れていきたい。
- ② KASANEO のらしきや以前から継続して行っていることに固執し捕らわれることで視野が狭くなってしまった。来年度は学年関係なくメンバー全員が意見を言いやすい環境と、それをきちんと考慮して取り組めるような体制を作ることで、視野を広げ KASANEO の活動の幅を広げていきたい。
- ③ SNS の活発化や新しい取り組みもできたが、それが KASANEO を知る入り口になったかは確かではない。そのためより多くの人に知ってもらえるよう学外に向けた広報活動をしていきたい。



<p>アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)</p>	<p>(アドバイザー教員氏名) 黒宮一太 (京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授)</p> <p>今年度の KASANEО は、2018 年度の発足当初から精力的に活動してきたことにより、近年また今後の日本の社会課題に着目した社会的意義の高いプロジェクトであることなどを広く認識してもらえたことで、昨年度まで以上に KASANEО への注目度が高まり、近隣地域の団体・組織から連携のお誘いを多くいただき、学生たちもそれに応えるべく精力的に活動した1年であったと評価できる。イベント等の予定が立て込んでいるなかでも、3 回生を中心にメンバーが結束し、KASANEО が大事にしてきたコンセプトをしっかりと守りながら、新しい味つけも施し、各活動を丁寧に実施してきた点も高く評価できる。加えて、シニアメンバーの発案により企画(スナップ撮影イベント(春))が実施されたことに加え、北横ハーモニーとの連携によりシニアメンバー以外の高齢者との交流も実現するなど、KASANEО がめざす「ファッションを通じて多世代の自然な交流の場」を生み出すことが1つひとつ実を結んだ1年であったとあってよい。なかでも、そうした1年の締めくくりとなる第7回宇治市健康長寿フェス 2023 では、ファッションショーに登場する学生メンバー、シニアメンバー、宇治市高齢者アカデミー生が着用している衣服の思い出を舞台上で語りランウェイを歩くたびに、観覧してくださっている方たちが近くに座っている者同士で自分たちの若かったころを思い出して会場の各所で昔を懐かしむ会話などが繰り返される様子が見られ、これぞまさしく、KASANEО にしかできない自然な交流の場となるファッションショーであったといえ、1つの理想の形を生み出すことができた1年であったと評価できる。</p> <p>1年間の活動をとおして、既存メンバーであった3回生と2回生はより一層頼もしい存在へと成長し、新規メンバーの1回生は主体性と責任感をもって活動に取り組むようになった。メンバー全員が KASANEО に誇りをもって、かつ、大いに楽しみながら活動できていることから、現2回生が中心となる次年度の KASANEО は、今年度の実績に甘んじることなく、また新たな色合いを見せてくれるものへと発展していくものと思われ、アドバイザー教員としてもいまからとても楽しみでならない。</p>
<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(ご氏名) 中村隆子氏 (ご所属) 北横ハーモニー</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>学生さんとの交流のおかげで皆さんイキイキされ、とても楽しみに過ごされています。学生さんもかわいくて素直な人ばかりで和んでいます。お互いに友達のような感じです。</p> <p>(ご氏名) 溝端安菜氏 (ご所属) 宇治市健康長寿部長寿生きがい課</p> <p>健康長寿フェスは今年で第7回の開催になり、地域団体の活動の発表を目的として行っています。京都文教大学においては当健康長寿フェスにて活動発表いただいた経過もあります。この度アカデミー生とのコラボで KASANEО さんにご参加いただき、非常に貴重な機会になりました。出演されたアカデミー生は学生と交流しながらとても生き生きとされており、その姿を見ることで、フェスに来られていた他の高齢者の方たちにも、とても刺激になったのではないかと思います。KASANEО さんのように、高齢者と学生がともに活動できるような団体は、高齢者アカデミー事業が目的としている多世代交流や、地域活動への参加促進につながる貴重なものだと思います。</p> <p>また、今回のような市のイベントに参加していただくことで、KASANEО さんの活動を広めることもでき、また、高齢者アカデミー事業の周知になる良い機会となりました。今後もさらに連携を深めていけるよう、お互いに協力し合っていけたらと思います。</p>

## 京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2022

## 事業実績書

2023年2月27日

プロジェクト名	KminKークミンクー
事業実施地域	京都府久世郡久御山町
連携先	地域パートナー：久御山町 総務部 企画財政課 主な連携団体等：久御山町内自治会
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      7 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      ⑪ 地域行催事      ⑫ その他 (      )
主な活動	( 12 ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	京都府久世郡久御山町では38の自治会が存在し、住民主体による様々な活動や事業が展開されている(令和4年4月1日時点)。一方で、自治会加入率は年々微減している。令和元年度では、自治会加入世帯の割合は50.5%であったのに対し、令和4年度では47.0%となっている。この背景として例えば自治会が実際に何をやっているのかわかりづらい、金銭的負担や定例会参加などの制約がある、入会へのハードルが高いなど課題がある。そこで、本団体では、久御山町役場、久御山町の各自治会と連携し、自治会が抱える課題解決や未加入世帯も交えたイベントの実施を通じて、全世代がいきいきと暮らせる自治会の構築を目指す。
具体的な事業内容	<p>・西部西林自治会 おしゃべり会 事業の趣旨 西部西林自治会様の自治会の活動において、悩んでいることや、学生に聞きたいことを気軽に話し合えるような場に参加。 実施日時 2022年7月7日 場所 西武西林自治会集会所 参加者の状況 自治会所属メンバー・KminK4 回生3名</p> <p>・くみやま まちのがっこう 事業の趣旨 久御山町の住民を対象に毎年開催されるイベントで、KminKは親子を対象にSDGsの観点からペットボトルを活用したワークショップを出店した。(第1回) 子供たちが挑戦できる場所をテーマに、ステージを用意しパフォーマンスができるイベント。KminKは折り紙教室のブースを展開し、子供たちとの交流を行った。(第2回) 実施日時 2022年7月24日 11月3日(第2回) 場所 久御山中央公園 参加者の状況 久御山町住民・KminKメンバー一同</p> <p>・久御山町中央公園活用ワークショップ、まちづくりセンター設計対話 事業の趣旨 令和6年度整備予定の久御山町中央公園を、どのようにして使っていきたいか、どんな公園にしたいかを全3回のワークショップで話し合った。KminKは、ピアガーデンの開催を目標とし、企画書の作成を行った。 令和7年度完成予定の久御山町まちづくりセンターを、どのようにして使っていきたいか、どんな施設なら使いたいかをワークショップ形式で対話を行った。 実施日時 中央公園活用ワークショップ：2022年8月2日、8月24日、9月26日 まちづくりセンター設計対話：2022年8月18日 場所 久御山町役場 参加者の状況 KminKメンバー一同</p>

・One Link フェスタ

事業の趣旨 久御山町の企業である、「ロックファーム京都」とコラボし、売り出したい作物であるかぼちゃを使用したプリンを作成した。企業との連携は KminK にとって初の試みであったが、様々な人に興味を持ってもらえるきっかけとなった。

実施日時 2022 年 11 月 3 日 場所 京都府立山城総合運動公園

参加者の状況 KminK ロックファーム連携班一同



< One Link フェスタへの参加 >

・久御山町自治会加入パンフレットワークショップ

事業の趣旨 令和 5 年度よりリニューアルされる自治会加入案内パンフレットをワークショップ形式にて作成に参加。全 3 回の実施があり、全体のレイアウトだけにとどまらず KminK の紹介ページを掲載していただけることにもなった。

実施日時 2022 年 11 月 14 日 28 日 12 月 19 日

参加者の状況 KminK メンバー一同



<ワークショップの様子>




<初心者向けスマホ教室（2023 年 2 月 27 日・28 日）の実施>

事業の成果	<p>今年度はコロナの影響等もあり、積極的に自治会と関わる機会が少なかったが、自治会加入案内パンフレットの作成に携わったり、自治会長会、まちのがっこうをはじめとした場においてKminKを知ってもらいきっかけ作りを行うことができた。その結果、多くの自治会の会員様や久御山町民の皆様にも認知して頂いた。また、協力自治体である久御山町役場様のご協力もあり、久御山町内のイベントなどにも多くお声がけいただいた。次年度以降の基盤作りができ、活動の幅を広げる大きな足掛かりができたと分析する。</p>
次年度への課題	<p>①自治会と関わる難しさ 自治会によっては一年交代で役員さんが変わってしまうところもあり、継続して進めていた企画が途中で上手くいかないという事があった。そのことから日頃から役員さんや住民の方々と密な連携を図り、役員の方が交代された際においても関係性を再び一から構築する必要がない工夫が求められる。</p> <p>②自分たちでイベントを実施する難しさ 今年度は既存のイベントに参加させてもらう機会を多々設けていただき、ブース出店等を経験させていただいた。しかしながら、自分たちで企画・運営を行うにはコスト、時間、労力が不足しているということに気付かされた。次年度以降は自分たちができる範囲の企画を考え、実行できる範囲で協力連携先の皆様と共同開催という形をとり行いたい。</p>
アドバイザー教員からの評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 黒宮一太 (京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授)</p> <p>KminKは今年度の新規プロジェクトであったにもかかわらず、前年度(2021年度)発足以前から、そして発足当初から久御山町役場、そしていくつかの自治会との連携を丁寧に築き、精力的に活動してきた蓄積があったことから、今年度あらためて地域連携学生プロジェクトとして採択されて以降、久御山町役場との連携も深まり、また、いくつかの自治会との新しい協働にむけて活動を展開できたと評価できる。それだけでなく、久御山町で活動している他団体や企業、高校との協働にも果敢に取り組んだことで、KminKの認知度が高まっただけでなく、連携したいと思ってもらえるプロジェクトに発展していている点も高く評価できる。</p> <p>また、地域連携学生プロジェクトとしての活動初年度ということもあり学生たちからすると当初の想定以上の各種組織・団体との活動に取り組むことになったと思うが、そのなかでも、精力的かつ丁寧に活動を展開することにより、認知度の向上や久御山町役場をはじめとする各種関係組織・団体との連携構築という目標を達成させただけでなく、次年度にむけた課題もしっかりと話し合っただけでなく、明らかにしている点も高く評価でき、アドバイザー教員ではあるが、今後のKminKに期待が膨らむとともに、今年度以上にワクワクさせてもらいたい、いや、一緒にワクワクするKminKにしていきたい。</p>
地域パートナー連携先からの評価 (コメント)	<p>(ご氏名) 蒲田 真希 (ご所属) 久御山町役場 総務部 企画財政課</p> <p>新型コロナウイルス感染症等の影響により活動が制限される中でしたが、自治会長会や各種イベントへの参加をとおして、KminKの活動を積極的に周知されていました。また、おしゃべり会への参加や自治会パンフレットの作成等、自治会と関わる活動にも尽力いただきました。KminKの活動に興味を示される自治会も多くあり、来年度の活動に向けて基盤を固めることができましたと思います。</p> <p>学生のみなさんとの協働と連携による地域コミュニティの活性化は、当町のまちづくりの目標の1つである「地域力を生かした協働のまちづくり」を推進するうえで非常に重要な取組です。来年度も積極的に活動いただけることを期待しています。</p>

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2022  
事業実績書

2023年2月27日

プロジェクト名	商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas
事業実施地域	宇治橋通り商店街
連携先	地域パートナー：宇治橋通商店街振興組合 理事長 佐脇至様
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      ⑦地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      ⑪地域行催事      12 その他 (      )
主な活動	( 7 ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	宇治橋通り商店街ではイベントの開催や、国内外からの観光客などにより賑わいのある商店街である。しかし現在、新型コロナウイルスの影響で国内外からの観光客数や地元客の集客も減少している。対面でのイベント開催が難しい中、賑わいのある商店街を取り戻すには、コロナ禍だからこそできるイベントの企画や情報発信の工夫、店主さんとの意見交流の機会を多く作り、情報共有や課題の確認などを行う必要があると考えている。そのために私たちは、商店街の魅力店主さんに代わり発信し、学生の立場から商店街とお客さまを繋ぐきっかけづくりを行う。
具体的な事業内容	<p><b>1. 宇治ロゲイニング開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～ 宇治ロゲイニングガイドブックの改訂</li> <li>・7月～ 源氏物語ロゲイニングの企画・ガイドブックの作成</li> </ul> <p>源氏物語を題材としたロゲイニングの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月16日 アカデミー生向けロゲイニングの開催 (20名ほどの参加)</li> </ul>  <p>&lt;色別ロゲイニングの実施&gt;</p> <p><b>2. 宇治橋通り商店街でのイベント企画運営・</b></p> <p>「宇治ふおと！～子どもと笑顔のものがたり～」宇治市秘書広報課と連携し市政だよりや宇治市の子育てLINEにて写真募集の呼びかけ/11月23日妙楽集会所、12月14日ぶんきょうにこにこルームにて子どもの撮影WS開催/広報のためFMうじに2回出演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月6日 スマイルサタデー(子供向けの七夕ブースと夏祭りブースを出演、イベント運営補助)</li> <li>・10月22日 わんさかフェスタ(宇治橋通り商店街の周遊イベント、店舗へのお手伝い)</li> <li>・11月5日-6日 いけばな街道(いけばなの飾り付け、YouTubeでの生配信)</li> </ul>



<「宇治ふおと！～子どもと笑顔のものがたり～」写真展示の様子>

### 3. 商店街の魅力発信

- ・ SNS を利用した商店街情報の発信（Instagram を中心に商店街の情報を発信）
- ・ Spiral up（FRO が発行するサテライトキャンパス取材記事） 8月号に coconi さん掲載

### 4. 他団体、企業との連携事業

- ・ 9月9日、12月16日東宇治高校の探求学習
- ・ 「宇治商工会議所 NEWS 記事作成」（宇治市内の商店街や店舗を紹介し掲載）  
平飼い卵の WABISUKE 様 8月号掲載 / ベリーファーム宇治様 3月号掲載
- ・ 「OneLink フェスタ」  
太陽が丘公園で行われた宇治青年会議所主催のイベント（テーマ「食」）に参画  
子どもの帽子屋専門店である Ha10 様による端切れご提供のもと、「野菜のちぎり絵を作成ブース」と「野菜クイズ」を開催
- ・ 9月23日～25日「全国まちづくりカレッジ」in 香川

### 5. その他の活動

- ・ オープンキャンパス
- ・ 9月7日 長岡京の商店街 佐協理事長と視察
- ・ 12月11日「ともいきフェスタ」へ参画
- ・ 6月18日、11月23日 まちにわWSの参画



<「活動報告（京都府 令和4年度『大学・学生の力発揮推進事業 報告会』令和5年1月20日）>


<p>事業の成果</p>	<p><b>1. 宇治ロゲイニングについて</b>                  アカデミー生ロゲイニングでは、20名ほどの参加を募ることができ、久しぶりに宇治ロゲイニングを行うことができた。また、アカデミー生の方からもロゲイニングについて貴重な意見をいただくことができたため、今後の活動に活かしていきたい。</p> <p><b>2. 宇治ふおと！～子どもと笑顔のものがたり～について</b>                  今年度は宇治市秘書広報課との連携によりママさんフォトグラファーを招いてWSの開催や、子育てLINEでの募集の呼びかけなどターゲット層に合った広報が出来たため、67点の作品を集めることが出来た。開催期間中はプチイベントも開催し、商店街に足を運ぶさらなるきっかけづくりが出来た。</p> <p><b>2. 2年ぶりに開催された商店街主催イベントへの参画について</b>                  わんさかフェスタでは参加者は商店街を周遊しスタンプを集めることで景品がもらえる周遊型イベントを企画した。参加者にとっては商店街やまちを歩く楽しさや地域の愛着創出、商店街にたいしては人の賑わいを創出することに貢献出来たと思う。CanVasとしても、実行委員会の打ち合わせに参加することで、店主さんとの交流を持つことが出来た。</p> <p><b>4. まちにわワークショップの参画について</b>                  子供が楽しめるブースを企画し運営することが出来た。また、「色」や「まち」を楽しみながら学び考えられる企画を立案し、子どもが自分の地域を少しでも知り興味をもつきっかけを生み出すことが出来た。</p> <p><b>5. いけばな街道について</b>                  メインコーナーである大阪屋マーケット内のあおいそら様や宇治橋商店街各地にて、認知症の方が生けた花やライトを使用し飾りつけを行った。YouTubeに生出演し、いけばな街道や宇治橋通り商店街の魅力を地域の方や全国に発信することができた。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p><b>1. 宇治ロゲイニングについて</b>                  ガイドブックの修正に思ったよりも時間がかかってしまったこと・外部の方（主に観光客など）を対象としたロゲイニングを行うことができなかったことを課題に挙げる。これらのことを踏まえて、次年度は期日をしっかりと定め、守り、イベントに向けて積極的に準備を行っていく必要があると考える。</p> <p><b>2. 宇治ふおと！～子どもと笑顔のものがたり～について</b>                  「宇治ふおと！」写真展では、テーマを変えての2年連続の開催のため、1度原点からの振り返りと今後について考え直す必要があると考える。商店街や宇治市との話し合い、お客さんの反響などを分析しながら工夫する。</p> <p><b>4. 2年ぶりに開催された商店街主催イベントへの参画について</b>                  イベント打ち合わせで店主さんとの関わりを持つことができたが、交流頻度は少ないため商店街へ出向き、良質な関係を築く必要がある。その時折だけでのイベントではなく、宇治橋通り商店街の魅力を発見してもらい、イベント後も自発的に宇治へ足を運んでもらえるようにできるブースの企画提案が必要である。</p> <p><b>5. CanVas について</b>                  宇治に足を運ぶ回数の少なさや店主さんの交流の減少により、メンバー自身が商店街の魅力を十分に知ることが出来ていないことが課題に挙げる。そのため、研修ロゲイニングを何度も行う、メンバーと商店街の交流、商店街の魅力を知ることが目的に広報冊子の作成など、CanVasの成長にも繋がるような新たな企画が必要だと考えた。</p>

アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 片山 明久 (京都文教大学総合社会学部総合社会学科准教授)</p> <p>今年度は例年に比べて催事数も多く、非常に積極的に取り組んでくれたと思う。特に2年ぶりに行われたわんさかフェスタとスマイルサタデーでは子供向けブースも大盛況でありイベントの盛り上げに大きく寄与した。</p> <p>また「宇治ふおと」企画も2年連続開催し、良い企画に仕上げたと思う。さらに源氏物語ロゲイニングの新企画や、いけばな街道、まちにわワークショップなど、これまでにはなかった連携先との活動にも取り組んだ事は高く評価できる。今後もルーティンの活動だけではなく、毎年新しい試みに挑戦して商店街との連携の幅を広げて行ってほしい。</p>
地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)	<p>(ご氏名) 佐脇至氏</p> <p>(ご所属) 宇治橋通商店街振興組合</p> <p>コロナ禍が続く中、計画したそれぞれの事業をしっかりとやり遂げたことは宇治橋通り商店街の活性化の一助となったと評価します。特に復活開催した「スマイルサタデー」「わんさかフェスタ」に関してはイベント未経験の中、それぞれのイベントを盛り上げる起爆剤となり canvas の存在感を示したと思います。</p> <p>一年間、お疲れ様でした。</p>



京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2022  
事業実績書

2023年2月27日

プロジェクト名	REACH
事業実施地域	京都府（京都市伏見区・宇治市・京田辺市ほか）
連携先	地域パートナー： 主な連携団体等：特定非営利活動法人京都ダルク、就労継続支援 B 型事業所 三休
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      ③ 共助型福祉活動      ④ 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      7 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      11 地域行催事      12 その他（      ）
主な活動	(      3      ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	大学での講義の中では依存症からの回復過程における DARC や当事者グループの重要性を学ぶが、大学を一步出れば、薬物依存症回復施設に反対意見を持つ人や、地域に依存症の人が来ることにに対して不安を感じる人もいる。大学での学びと地域の現状とのギャップの中で、学生に出来ることやするべきことを考えていく必要がある。REACH では、さまざまな社会的背景を持つ方々とも立場を超えた対等な目線を持ち、人と人の生きた交流をしていくことで、対話と共生が可能な地域と社会のあり方を考える。
具体的な事業内容	<p>①月に2回ほど、三休にて就労作業に参加。また、月に1回ミーティングも行った。</p> <p>②7月2日にはカフェ Kitten company にて、9月17日には再度三休にて当事者の方をお呼びし、ブラインドカフェを行った。</p> <p>③年に6回大学内にて京都 DARC とレジンアクセサリー作成を行った。</p> <p>④4月と5月に新入生向けにブラインド体験や依存症の勉強会などの企画を行った。</p> <p>⑤5月9日に社会福祉法人 京都ライトハウスへ施設見学に伺った。</p> <p>⑥5月27日、9月16日にぐんぐんハウスの販売会（手づくり市）に参加した。</p> <p>⑦5月29日に向島にっこりフェスティバルに参加し、DARC さんと作成したレジンアクセサリーの販売を行った。</p> <p>⑧6月6日に京都ライトハウスにて京都府視覚障害者協会の方との打ち合わせを行った。</p> <p>⑨6月22日に京都 DARC さんとの学内ブラインド体験を実施した。</p> <p>⑩年に4回向島元気バザールに参加、10月23日に向島まつりに参加し DARC さんと作成したレジンアクセサリーの販売を行った。</p>
	 <p>&lt;元気バザールへの参加&gt;</p>

- ⑪ 7月13日にイマジンの重箱洗いに参加し、その後施設見学とミーティングを行った。11月28日にリース作りに参加した。12月19日にイマジンカフェで提供されるおやつを作った。
- ⑫ 7月21日宇治商工会議所所報に掲載するインタビューを角井食品にて実施した。
- ⑬ 7月25日に新たな広報の形としてnoteでのブログを開始した。
- ⑭ 8月21日に京都府視覚障害者協会の方と打ち合わせを行った。
- ⑮ 8月22日、11月25日、12月23日にぐんぐんハウスとミーティングを行い、9月16日にメンバーの名刺を作っていたいただいた。
- ⑯ 9月12日に視覚障害者サポート講座に参加し、視覚障がい者の手引き方法などについて勉強した。
- ⑰ 9月15日に障害者就労継続支援B型事業所 キャッチアップへ施設見学に伺った。
- ⑱ 10月12日、10月19日にぐんぐんハウス、1月11日にはイマジンと大学構内見学を行った。
- ⑲ 10月26日に中小企業交流会で活動紹介の発表を行った。
- ⑳ 11月7日に三休との「七夕企画」第一回としてたこ焼きパーティーを行った。
- ㉑ 12月11日にともいきフェスティバルにてブラインド体験、三休のハーブティー・サコッシュの販売、京都DARCと作ったアクセサリーの販売、アクセサリー作り体験を行った。
- ㉒ 12月17日に浄土宗門関係大学社会連携企画報告会にてREACHの活動紹介、ディスカッションを行った。



<「第8回浄土宗門関係大学社会連携企画報告会」にて報告>

- ㉓ 2月10日に3月8日に行われる伏見ふれあいフェスタの打合せに参加した。



<「伏見ふれあいフェスタ」(2023年3月8日)で、「ブラインド体験」を実施>

<p>事業の成果</p>	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ともいきフェスティバルでは、三休さんとダルクさんに来ていただき、領域などが異なる施設同士を REACH が介すことによって繋がりを作ることが出来た。</li> </ul> <p>福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三休さんでの就労作業に月二回参加し、交流を深めることが出来た。そして就労作業での様子を伝えるブログを開始し、REACH と三休の交流の様子を発信した。</li> <li>・三休さんとの月 1 ミーティングを設けることで、密に連絡を取り合い、計画を円滑に実行することができることも関係性を構築することが出来た。</li> <li>・三休メンバーさんのニーズを叶えることを目的として七夕企画を開始した。</li> <li>・大学構内見学を企画し、ぐんぐんハウスさんに 2 回、イマジンさんに 1 回来ていただいた。学内の学生に REACH の活動を知ってもらえる機会となり、メンバーさんも興味津々で楽しそうだったとの感想をいただいた。</li> </ul> <p>ダルク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルクさんとアクセサリ作りを行い、交流を深め、地域発信のための基盤作りを行う事が出来た。</li> <li>・通年参加している向島元気バザールだけでなく、10月23日に向島まつり、5月29日に向島っこりフェスティバルにも参加し、より多くの地域の方に依存症について知っていただく機会になった。</li> <li>・バザーへの出店を複数誘って頂き、出展者や主催者の方などとの地域の繋がりを深められた。</li> </ul> <p>ブラインド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都ライトハウスや京都視覚障害者協会と新たに関係性を作ることが出来た。</li> <li>・ブラインドカフェに当事者の方をお呼びすることで、地域の方と当事者の交流の場を設けることが出来た。</li> <li>・ブラインドカフェを別箇所で開催することで、より多くの地域の方に視覚障害について知ってもらう機会になった。</li> <li>・ブラインドカフェを開催し、全盲や弱視等の見え方を体験してもらった。</li> <li>・白杖の使用方法及び手引きの方法を習得、伝授した。</li> <li>・当事者の方に質疑応答の時間を設け、視覚障害に対する理解を深めた。</li> <li>・ともいきフェスティバルで塗り絵、ボール遊びを通じて小さい子にも弱視を体験してもらい、視覚障害について体験的に知ってもらう機会になった。</li> </ul>
<p>次年度への課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・REACH メンバー間での理念の共有が不十分だった点。</li> <li>・イベントの準備に追われて広報が遅れるなど広報が弱い点。</li> <li>・福祉や障害、依存症について知識がない人に向けたアプローチの少ない点。</li> <li>・ブラインドカフェで地域の方と当事者の方との交流の場を作ることが出来たのは良かったが、時間の問題やプログラムの流れが滞ったことにより交流の時間が短くなってしまった点。</li> <li>・事前アンケートや事後アンケート等のフィードバックが不十分だった点。</li> </ul>
<p>アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)</p>	<p>(アドバイザー教員氏名) 松田美枝 (京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科准教授)</p> <p>今年度も活動が盛沢山でした。地域の障害福祉事業所や依存症回復施設の皆さまと交流することで、目標としている「大学での学びと地域の現状の中で、学生にできること」を実践できたという実感を持っていたら良いと思います。どうしても目先のイベントの準備に追われて、活動自体が目的になってしまい、自分たちがどうしてこの活動をしているのか、活動することで何を達成できているかを見失いがちかと思います。学生の皆さんが燃え尽きてしまうことなく、意義ある活動を行っているという実感を持ると良いですね。どこかで一度、立ち止まって、皆で振り返る機会をぜひ持ってください。</p>

<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(ご氏名) 越智 有紗 氏 (ご所属) 特定非営利活動法人京都 DARC</p> <p>まだまだ依存症に対する偏見が多い状況の中で、学生さんたちが利用者に興味を示し、関わり続けてくださっていることを高く評価いたします。学生の皆さんの関わりが利用者さんの自信に繋がっていることは目に見えてわかりますので、引き続き交流の場を設けて頂きたいと思えます。</p> <p>また、京都 DARC 以外の事業所同士の関わりは、表面的な繋がりだけでなく、協働して1つの活動を行う等、より密接な活動ができると面白いと感じています。</p> <p>さらに、その中で地域住民の皆さんと関わりを持てるような、よりコミュニティが広がる活動が実施されることを期待しております。</p>
<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(ご氏名) 世古口 敦嗣 氏 (ご所属) 三休合同会社</p> <p>REACH の活動を通じ、「REACH と三休」の組織間の関係性ではなく「学生とメンバー」の個人間の関係性を構築する共通認識を REACH 全体に波及していると感じています。特に七夕企画は学生発案からメンバーの「したいこと」を実現することができ、かつ、「次はいつやるの?」とメンバーからの質問もありお互いが意図した流れをつくることができた実感しました。また毎月の活動は絶えることなく毎月実施し、日々メンバーとの信頼性がつくられていると思う反面、まだ「外部からの関わり」感が拭えないので、そこを解消していくことを意識していただければ、お互いにとってさらに良い活動に昇華できると思っています。次年度も引き続き関わりたく、また、七夕企画を三休の年間スケジュールに組み込みメンバーの楽しみごとにしていきたいので引き続きよろしくお願ひします!</p>